内モンゴルのモンゴル民族の語学教育事情

青格楽図, 烏蘭

The State of Mongolian Language Education in Inner Mongolia

Chingelt, Wulan

要旨: 本稿では内モンゴルのモンゴル民族のバイリンガルから3言語へ進んでいる語学について小学校から博士レベルに至る事情を簡略に述べた。

Abstract: The essay briefly introduces the developing situation of the Mongolian students' learning stages from elementary to doctor's degree through bilingual or even trilingual education.

キーワード: 内モンゴル、モンゴル民族、バイリンガル、3言語

Key words: Inner Mongolia, Mongolian, bilingual education, trilingual education

1. はじめに

内モンゴル自治区は1947年5月1日に成立し、中華人民共和国の少数民族自治区としては最も早い時期に成立した自治区である。総面積は1,138,000km²であり、モンゴル族、漢族、満族、回族、朝鮮族、ダフル族、エヴェンキ族などの49民族が住んでいる。自治区全人口の23,923,500人のうち、モンゴル族は4,238,300人(17.7%) (2006年末)がいる。漢族が多数を占めてはいるが、モンゴル族が主体になっている自治区である。

自治区内で通用している言語は中国語とモンゴル語である。モンゴル民族の多数はモンゴル語を母語として使用しているが、少数の主に都市部の居住者の中には中国語を母語として使用しているものもある。

1990年以前はモンゴル学校では小学校三年次から中国語の教科を設定し、中学校と高等学校では中国語はもちろん、外国語の教科はほとんど設定していない。

1978年の中国共産党第十一期三中全会以来、モンゴル民族の教育はかつてない速度で発展してきた。20年前から、モンゴル民族の教育は幼稚園から博士の教育に至るまでモンゴル語で授業をする体制が整えられている。この方面では別の少数民族とは比べ物にならないほど優勢を保っているのである。

今、内モンゴルのモンゴル民族の語学教育はバイリンガルから3言語の教育へ進んで

いる途上にある。

2. 小学校の語学教育

中国では中国語は公用言語であるので、少数民族としてのモンゴル民族は自分の民族言語—モンゴル語を勉強すると共に、必ず、中国語も勉強する必要がある。そして、モンゴル民族の子供たちは小学校から中国語を勉強する。小学校何年次から中国語を勉強するのかは地域と学校によって違いがある。たとえば、内モンゴルの東北地方は少数民族の雑居程度が高いから、バイリンガル状況も西部地域と比べるとはっきりしている。また、都市や町の学校と農村や牧区の学校との格差も大きい。政府の文献に二年次から中国語、三年次から外国語（英語）と定めていても、保護者達や進学、就職などの社会的ないろいろなプレッシャーによって、学校は自分の運営条件と設備に応じて、中国語と外国語の教科を設定する時間にも違いがある。都市や町の学校は小学校一年次から中国語を勉強し、三年次から外国語を勉強するようになった。農村牧区の学校も二年次かまたは三年次から中国語の教科を設置する。小学校の教育指導要領に中国語と外国語の授業時間や学習内容についてははっきり書いてある。内モンゴル自治区教育厅2003年の文献では下表のとおりに定めている：

甲 類			乙 類		
年次	科目	週間授業時間	年次	科目	週間授業時間
1－2	モンゴル語	9	1－3	モンゴル語	3
1－2	漢語文	3	1－3	語文	8
1－2	英語	—	1－2	英語	—
3－6	モンゴル語	6	4－6	モンゴル語	3
3－6	漢語文	4	4－6	語文	7
3－6	英語	3	3－6	英語	3

甲類、乙類というのは授業をする言語の種類を指す。甲類はモンゴル民族の学校は自分の母語—モンゴル語で授業していることを指す。乙類はモンゴル民族の学校やクラスは中国語で授業し、モンゴル語を加えて勉強することを指す。乙類の授業を受けている子供たちの大部分は都市や町に生まれて、幼い頃から漢民族の幼稚園に入って、自分の民族言語を自由に使わないので、中国語で授業をする学校やクラスに入るのである。乙類の授業を受けている学生はますます少なくなっている。甲類のモンゴル語、漢語文、英語と乙類のモンゴル語の教科書を内モンゴル自治区で編纂し、自治区内のモンゴル学校と周辺の7省、自治区のモンゴル学校やモンゴルクラスで使用される。授業時間は普通40分—45分、学校によって違いことがある。一週間は5—6日、学校によって違

いがある。毎学年は35週の授業時間で計算する。乙類のモンゴル語は甲類のモンゴル語より易しく、語文は甲類の漢語文より難しく、漢民族の学校の語文（中国語）と同じである。本稿では甲類の授業をする学校の語学事情を紹介する。

小学校段階のモンゴル語の目標は叙述体の作文と説明体の作文を自由に書けること、漢語文の目標は日常用漢字を4000語ほど覚え、その内3000語ほどを書けること、初級会話の能力を備え、100-200文字ぐらいの日記と叙述体の作文を書けること、英語の目標はアルファベットをしっかりと身に付け、日常用単語を600-700語ほど、慣用語を50語ほど覚えるようにして、中学校の英語の基礎を作れるようにすることである。

3. 中学校の語学教育

中学校は9年義務教育の重要な段階であり、語学（モンゴル語、漢語文、英語）は主要な基礎的な教科として行われているし、さらに入学試験の主要な科目と決められている。中学校にはモンゴル語、漢語文、英語を同じ重要度で勉強するのに、やはり母語—モンゴル語の語感を養うのが最も重要である。モンゴル中学校段階の各語学教育授業の割り当ては大体次表のようになる。

甲 類			乙 類		
年次	科目	週間授業時間	年次	科目	週間授業時間
7-9	モンゴル語	4	7-9	モンゴル語	3
7-9	漢語文	4	7-9	語文	5
7-9	英語	4	7-9	英語	4

この段階でのモンゴル語の目標は常用単語を4000-5000語身につけ、慣用語を約1000語覚え、標準語で話す、叙述文、簡単な説明文、簡単な議論文と一般的実用文を書けること。漢語文の目標は常用単語を5000語程度覚え、その内約4000語を身につけ、簡単な記事文や一般的な実用文を書けること。英語の目標は1500-1600語ほどの単語と200-300語ほどの慣用語を覚え、日常会話ができることなどである。

4. 高等学校の語学教育

高等学校の語学教育については、自治区教育庁の教育指導要領で詳しく説明しており、学校によって運営条件や目標などに基づいて各語学教科の授業時間を定めている。高等学校の全ての語学教育は大学入学試験に向かって行われる。高等学校には、モンゴル語学授業の時間を減らし、英語と漢語文の授業の時間を増やしているところもある。モンゴル語で授業をする学生は大学の入学試験に英語の点数が高くなったら、漢民族の学生

と同じに有名な大学に入る可能性がある。有名な大学と自治区以外の大学に入ったら、全課程は中国語で授業を受けることになる。また、大学に入ってから続けて英語を勉強する。高等学校の語学教育目標では、漢語文は7000程度の常用単語を覚え、その内6200ほどの単語を身につけ、約500-600文字の叙述文、簡単な説明文、簡単な議論文及び一般実用文を書けるようにすること、英語は3000語程度の常用単語と400-500語ほどの慣用語を覚え、短文を書けるようにすることが掲げられている。

5. 大学語学教育

大学の語学教育事情は中学と高等学校とで違うことがある。学生は改めて勉強したい語学を選ぶことがある。高等学校に乙類の授業を受けた学生はモンゴル語を選ぶと共に一つの外国語を選んで勉強する。モンゴル語で授業を受けた学生は大学漢語文を選ぶと共に一つの外国語を選んで勉強する。大学ではモンゴル学生の半分ぐらいは英語を、残りは日本語を選んで勉強する。モンゴル学生にとって英語は日本語より難しく思われる。中学と高等学校では日本語を勉強しなかったのに、大学に入って日本語を選ぶ人が多いのである。日本語を選ぶ主な理由は、モンゴル語と日本語は似ているところが多く、語順も同じであるからである。発音もモンゴル人にとって難しくない。また、漢字があるのは単語を覚えるのに役に立つ。大学で日本語の最高水準の試験は国家四級である。この試験に合格(60点)する人は少ない。

6. 研究生(修士、博士レベル)の語学教育

モンゴル学生には研究生の入学試験に外国語として日本語の試験(全国统一)を受ける人が多い。学校によって、修士課程を卒業するまでに必ず国家四級試験に合格することという規定もある。博士号の入学試験の日本語は各学校の内で統一している。日本語の試験を受けた博士課程の学生は必ず第二外国語として英語を勉強する必要がある。英語の試験を受けた博士課程の学生は第二外国語を自分で決めるのである。

執筆者紹介

青格楽図

所属：中国 内蒙古師範大学蒙古学学院

Email：qinggele@imnu.edu.cn qingge64@yahoo.com.cn

専門分野：モンゴル語情報処理 理論言語学

烏蘭

所属：中国 内蒙古師範大学外国語学院

Email：wywln@imnu.edu.cn

専門分野：英語学